



フライトシュミレーター



漁原さんが乗務するボーイング737

Home

長洲町に生まれて

この町で生まれ、この町で育ち、そして今、古里・長洲町を思う…。このコーナーでは、さまざまな分野で活躍する長洲町出身の人を紹介します。

ANA ウイングス株式会社

副操縦士

りょう はら しゅう いち
漁原 秀一 さん

夢を追い続ける



【PROFILE】

1992年2月18日生まれ。今町区出身。長洲小、長洲中、県立玉名高校、崇城大学卒業後、2014年ANAウイングス株式会社入社。2016年より副操縦士として活躍。26歳。

【ライセンス取得経歴】

航空無線通信士	(2011年 3月30日)
自家用操縦士	(2012年 8月 6日)
事業用操縦士	(2013年 4月18日)
多発限定証明	(2013年10月24日)
計器飛行証明	(2014年 3月 7日)
B737型機限定証明	(2016年 5月26日)

長洲小5年生だった少年は、当時放送された若手の旅客機パイロットが主人公のドラマを見て大空に夢と憧れを抱いた。それから15年。夢を追い続けた少年は夢を叶え、副操縦士として日本の空を飛んでいる。

「副操縦士として初めて乗務し、目の前に広がる景色を見たときの感動は忘れられないですね」と話すのはANAウイングスの副操縦士、漁原秀一さん。

高校卒業後の進路を考えたとき、最短で操縦士になれる道と考えた。当時、日本で操縦士を目指す大学は4校。そのなかの1校、崇城大学宇宙航空システム工学科への進学を決めた。大学では、操縦士になるための基礎を学び、国家資格などを数多く取得。ANAウイングス(株)に入社してからは、更に勉強の日々を送った。入社して1年半は他職種研修として、パイロットの勤務管理を経験。その後、東京で8カ月間の訓練を受け、ジェット機のライセンスを取得した。「フライトシュミレーターで6時間の訓練のほか、食事の時間以外はとにかく予習・復習を繰り返していました」と当時の日常を振り返る。実技、法律、システム、英語など学ぶべき分野は多岐にわたる。「ジェット機のシステムだけ

でも1,000ページを超える量を頭に入れます。覚えることが多すぎるくらいあるんです」と笑って話す漁原さん。その後、3カ月間の路線訓練を経て、副操縦士になり、24歳の若さで操縦士になる夢を叶えた。「乗客の命を預かる責任感を忘れなようにしたいです」と話す。

夢を叶えるために必要なこと

夢をもつ子どもたちへー

夢を追い続けることで、どんなに苦労しても頑張れた。そんな漁原さんは、勉強も楽しく取り組むと覚えやすいと話す。「特に、幼い頃から英語に触れるといいですね。長洲町では幼児英語教育にも力を入れていると聞きました。すごく良いことだと思います」と語学力も大切だと語る。

操縦士になるという夢を叶えた漁原さんだが、20代で機長になることを目指している。「機長になるといろんな判断が求められるので、日々の勉強はもちろんのこと、多くのことを見て、聞いて、考える力を伸ばしていきたいです」と力強く話す漁原さんは、今日もたくさんの命を乗せて、大空へ向けて飛び立つー